

《論説・動向》

中世後期の彩飾写本をめぐる研究と教育の可能性

——『クルムロフ宗教論集』所収の『人類救済の鏡』から——

藤井 真生

2012年にチェコの中世美術史家ブロッスキーが刊行した『チェコの彩飾写本之美』は、500点におよぶカラー図版を掲載した、まさに中世文化の美を示す書物である¹。世界的にも有名な『ヴァーツラフ 4世の聖書』（オーストリア国立図書館所蔵）や『イエーナ写本』（チ



図1：ノアの箱舟（『クルムロフ宗教論集』）

出典：P. Brodský, *Krásy českých iluminovaných rukopisů*, p. 98.

ェコ国立博物館図書室所蔵）などと並んで、18点もの図像が紹介されている写本が存在する（図1）。それが本稿で紹介する『クルムロフ宗教論集』（チェコ国立博物館図書室所蔵）である。

この写本は、3年前に筆者が翻訳したチェコの歴史家フサの『中世仕事図絵』にも何点かの図像が収録されていることからわかるように、チェコでは中世の図像資料として比較的知られている²。その名は、チェスキー・クルムロフの修道院に伝来したことに由来しており、いくつかの宗教テキストを合本する形で作成されている。このテキスト群にはヤ

ン・フスや彼の先輩説教師であるトマーシュ・シュチートゥニーの著作も含まれており、1415年以後のまもない時期に、フス派支持者のために制作されたという説が有力である³。最新の研究では、チェスキー・クルムロフの有力貴族ロジュンベルク家オルジフがフス派の陣営に属していた1417年ごろに、この豪華な彩飾写本を作らせたものとされている⁴。

¹ P. Brodský, *Krásy českých iluminovaných rukopisů*, Praha, 2012.

² ヴァーツラフ・フサ（拙訳）『中世仕事図絵』八坂書房、2017年。

³ 収録されているテキストはすべて中世チェコ語で、順にトマーシュ訳『人類救済の鏡』、アルベルトゥス・マグヌス『魂の楽園』、ハインリッヒ・ゾイゼ『永遠の知恵の書』、ボナヴェントゥラ『独語録』、同『修道女に与える生活の完成についての書』、そしてヤン・フス『七つの大罪』、トマーシュ・シュチートゥニー『富める若者の死についての書』となっている。中世チェコ語で書かれていることから、俗語での論争を好むフス派のためのものと考えられる。もちろん、説教師フスおよびトマーシュのパンフレットが含まれていることは最大の証左となる。さらには、ダヴィデ王の楯にフス派のシンボル聖杯が描かれていることも、フス派的環境の中での制作を支持する。

⁴ D. Rywíková, „Problém krumlovského sborníku aneb kalich jako utrakvistický symbol?“, *Umění* 2009/4, pp. 349-363. ボヘミア南部の大貴族ロジュンベルク家は、1420年を境にフス派からカトリック陣営へ転じる。この時期の当主オルジフ2世は1403年の生まれとされており、フス派の有力者であり、ロジュンベルク家と姻戚関係にあったボヘミア西部の有力貴族ロジュンベルク家のチェニェクの影響下にあった。『クルムロ

筆者は数年前から大学院ゼミで中世の彩飾写本の読解をおこなっており、この3年間はこの『クルムロフ宗教論集』を用いている⁵。受講者は西洋史専攻にかぎらず、日本史や考古学専攻の者もいるため、ラテン語などの史料読解ではなく、日本語のテキストがある史料の挿絵を解釈することを課してきた。とはいえ、筆者の関心とも重なり、かつデジタル資料が公開されているなどの条件に合致するものはそれほど多くはない。日本語訳はないものの、図像に短い見出しのついている本テキストはかろうじて条件を満たしているのである。

この『クルムロフ宗教論集』は、チェコの国立図書館が提供するサービス [manuscriptorium](http://www.manuscriptorium.com/)

(<http://www.manuscriptorium.com/>)

の Digital Library で、

[krumlovsky sbornik](http://www.manuscriptorium.com/) と検索すれば閲覧できる (図 2)⁶。

各ページに2枚の図が配置され、下にテキストが書かれている。図の上には赤い文字で簡単なフレーズがつけられているため、これを手掛かりに受講者と出典を調べ、描かれている人物や場面を確認する作業をおこなっている。

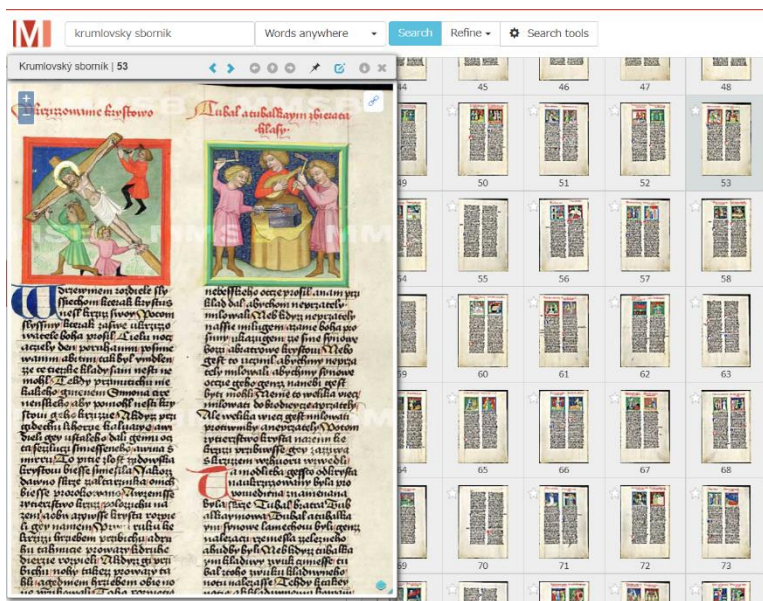


図 2: [manuscriptorium](http://www.manuscriptorium.com/) (<http://www.manuscriptorium.com/>) における『クルムロフ宗教論集』の閲覧ページ (2020年3月23日)

見たい図像をクリックすると、左側のように別ウインドが開く (拡大も可能)。

は前述の通りだが、487ページのうち冒頭の111ページまでを『人類救済の鏡』*Speculum Humanae Salvationis* と呼ばれる宗教書が占めている。また、図像が描かれている全193ページのうち、このテキストには半分近くの95ページが集中している。さらには、枠で囲まれて挿入されている図の数でカウントすると、288図のうち175図となる。写本全体のなかで、いかにこのテキストが重要視され、ビジュアル的な仕掛けが施されているのかを理解することができよう。

『クルムロフ宗教論集』が本当にロジュンバルク家の制作させたものであったならば、そこには未成年のオルジフに対するフス派教育の意図があったのかもしれない。

⁵ 藤井他『『ザクセンシュピーゲル』の図像読解と高校世界史教材化の試み』『人文論集 (静岡大学)』66巻2号 (2015年)、35-63頁、藤井他『『ザクセンシュピーゲル』の図像読解と高校世界史教材化の試み (2)』『人文論集 (静岡大学)』67巻1号 (2016年)、41-64頁、藤井他『『ヴェリ斯拉フ聖書』の図像読解と高校世界史教材化の試み』『人文論集 (静岡大学)』68巻2号 (2018年)、23-60頁。

⁶ 『中世仕事図絵』の巻末にURLを掲載したが、現在は直接個々のページにリンクされていないため、第2版では必要なページに行き着く方法を加筆しておいた。『クルムロフ宗教論集』の場合は、本文のように「[krumlovsky sbornik](http://www.manuscriptorium.com/)」で検索すると、5件ヒットする。上から3番目が当該資料の閲覧ページになっている (さらに [facsimile](#) のタブへ)。

では、この『人類救済の鏡』とは一体どのようなテキストなのだろうか。CiNii の論文検索では、『人類救済の鏡』あるいは *Speculum humanae salvationis* でヒットするのはキリスト教美術研究の論文一本にすぎない。一方、図書検索で *Speculum humanae salvationis* と打ち込むと、十数件の洋書が現れる。その多くは各地域に伝わる写本ないし木版本の研究であり、日本ではあまり取り上げられていないものの、ヨーロッパでは広く流布した重要なテキストであったことがうかがえる⁷。本書は、旧約聖書の出来事を新約聖書における出来事の予兆とみる、いわゆる予型論的な宗教書として、『貧者の聖書』*Biblia Pauperum*⁸と並ぶ重要テキストなのである。絵入りで宗教教育に使われたとみられている点も両者に共通している。

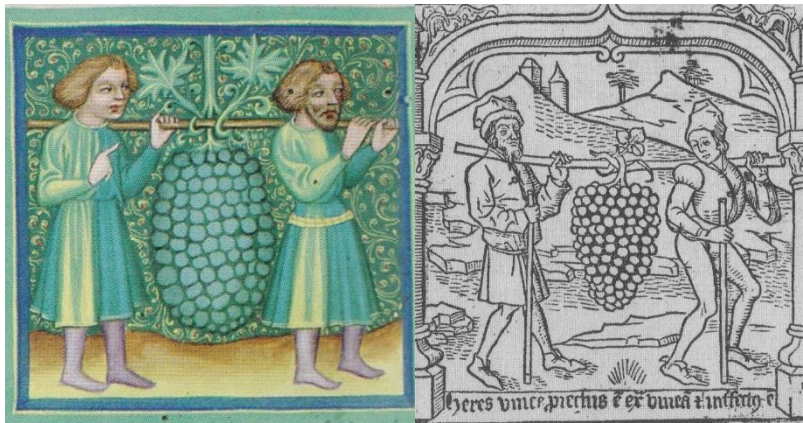


図3：「民数記」13章における約束の地カナンへの偵察の場面

出典：(左) P. Brodský, *Kráska českých iluminovaných rukopisů*, p. 101. (右) A. Labriola, J. Smeltz, *The Mirror of Salvation*, p. 61.

筆者は当初、『クルムロフ宗教論集』を調べていくなかでブリティッシュ・ライブラリー所蔵の木版版を取り、その構図の類似性に強く興味をひかれた(図3)⁹。中世チェコ史を研究する者としては、中世後期のボヘミアとイングランドの思想史的交流(ウィクリフ/ロラード派とフス派の相互影響)が

すぐに想起されたからである¹⁰。つまり、両者の交流の中でこうした類似性が生じたのではないかと考えたのである。しかし、ことはそれほど簡単なものではない。

『人類救済の鏡』は14世紀前半に、逸名の作者——ドミニコ会修道士という説が有力——によって執筆された。その制作地に関しては、イタリアないしドイツで1320年前後に制作されたらしきことまでは判明しているが、そのどちらが先行しているのかは研究者の間で合意をみていない¹¹。まもなく他のヨーロッパ諸国にも普及し、15世紀までに少なくと

⁷ ただし、チェコにおけるテキスト研究はあまり進んでいないらしく、『クルムロフ宗教論集』に関して前述のプロツキーの他、同じく美術史家のクラサやステイスカルなどの彩飾写本に関する総括的な書物で触れられている程度である。J. Krása, *České iluminované rukopisy 13. - 16. století*, Praha, 1990, K. Stejskal, P. Vojt, *Iluminované rukopisy doby husitské*, Praha, 1990.

⁸ たとえば、A. Labriola, J. Smeltz (trans. & comm.), *The Bible of the Poor*, Pittsburgh-Pennsylvania, 1990 など。

⁹ A. Labriola, J. Smeltz (trans. & comm.), *The Mirror of Salvation*, Pittsburgh-Pennsylvania, 2002. その他、15世紀後半の中世英語版木版本(A. Henry, *The Mirour of Mans Saluacioun*, Wiltshire, 1986) やクレムスミュンスター修道院所蔵の彩飾写本(W. Neumüller, *Speculum humanae salvationis*, Graz, 1997) も刊行されている。

¹⁰ ウィクリフの著作がチェコの知識人に与えた影響に関しては、薩摩秀登『プラハの異端者たち』現代書館、1998年。なお、ウィクリフの側でも、王妃アンナがもたらしたチェコ語訳聖書の存在を知り、英語訳への刺激を受けている。M. Lambert, *Medieval Heresy*, Blackwell, 2002 (3rd), chap. 12.

¹¹ A. Henry, *The Mirour of Mans Saluacioun*, p. 10, B. Cardon, *Manuscripts of the Speculum Humanae Salvationis in the southern Netherlands (c. 1410 - c. 1470)*, Leuven, 1996, pp. 32-41. 他に、A. Wilson & J. Wilson, *A Medieval*

も 394 種類——そのうち彩飾されたものは 190 種類以上——の写本の存在が確認されており、ラテン語のみならず、『クルムロフ宗教論集』のように、俗語にも（チェコ語のほか、ドイツ語、フランス語、オランダ語）翻訳されている¹²。15 世紀以降になると、手稿本ではなく木版本も増加し、こちらは 20 種類以上の版が制作された¹³。この『人類救済の鏡』は、中世におけるある種のベストセラーなのである。

そうした中で、図像解釈学の嚆矢とされるアビ・ヴァールブルクが収集した資料を引き継いだロンドン大学のウォーバーク研究所は、イーヴリン・シルヴァーなどの研究者から贈与を受けて、断片や不揃いのものを含めると百種類ほどの写本の図像をウェブ上（https://iconographic.warburg.sas.ac.uk/vpc/VPC_search/Speculum_intro.html）で公開している（その他に木版本のデータも掲載されている）。このデータは所蔵地のアルファベットにしたがって並べられているが、推定される制作年代順に並べ替えたものが文末の表 1 となる（黄色い網掛けが当該写本）¹⁴。なお、同じモチーフの図像を一括表示することもできる。

このデータベースで検証した限りでは、14 世紀前半から構図の様式には共通性がみられ、おおよそ継承されていることが判明する。前頁で紹介した「約束の地のブドウ」の場面もすべて同じ描かれ方をしている（2 人の男が巨大なブドウ 1 房を天秤棒でかついでいる）。ヴァリエーションがみられるのは、創世記やイエスをめぐる物語など、はるか昔から各地で図像製作がなされてきたような主題にかぎられる。一方、それほどメジャーでないモチーフに関しては、中世後期を通じて先行する写本を手本とした可能性が高い。いくつかの場面では、15 世紀後半のイングランド木版本よりも、もっとも古いとされているクレムスミュンスター修道院版のほうが、『クルムロフ宗教論集』との構図の類似がみられる（次頁の図 4）。したがって、構図の類似性は当初推測したようなボヘミア・イングランド間の交流とは無関係であったが、逆に、ヨーロッパ各地に広く流通した宗教書をフス派も重視して利用していたということが出来る¹⁵。『クルムロフ宗教論集』は決して例外的な事例ではなく、中世ヨーロッパにおいてある程度の普遍性をもつ聖書の読み方と図像表現を示しているのである。

では、この時代の人々は聖書にどのように接していたのだろうか。先に述べたように、この『人類救済の鏡』は予型論的なテキストである。予型論とは、たとえば、旧約聖書におけるモーセやダヴィデの体験が、イエスの身に起こるどのような事件を予兆しているのかを説明する聖書の解釈方法のひとつである。少し戻って図 2 を参照してもらいたい。既

Mirror: Speculum Humanae Salvationis, 1324-1500, Berkeley-Los Angeles-London, 1984 など。

¹² A. Henry, *The Mirour of Mans Saluacioun*, p. 10.

¹³ ウォーバーク研究所のサイト（https://iconographic.warburg.sas.ac.uk/vpc/VPC_search/Speculum_intro.html）における B. Kress の説明文を参照（最終閲覧日 2020 年 3 月 23 日）。

¹⁴ ウォーバーク研究所のサイト（https://iconographic.warburg.sas.ac.uk/vpc/VPC_search/subcats.php?cat_1=14&cat_2=812&cat_3=2903&cat_4=5439&cat_5=13111&cat_6=9245）より作成（最終閲覧日 2020 年 3 月 23 日）。おおよその年代順でいえば、100 余点の手稿本のうち、『クルムロフ宗教論集』の制作年代は中ほどに位置するが、チェコで最古のものは 14 世紀後半に制作されている。

¹⁵ ウィクリフの場合も、もともとはオックスフォード大学で同僚たちの支持を得ていた神学者であり、特殊な宗教書を受容していたわけではない。M. Lambert, *Medieval Heresy*, chap. 12.



図4:「マタイによる福音書」4章におけるイエスの誘惑の場面

出典: (左) W. Neumüller, *Speculum humanae salvationis*, 1997, f. 18. (中) P. Brodský, *Krásá českých iluminovaných rukopisů*, p. 117. (右) A. Labriola, J. Smeltz, *The Mirror of Salvation*, p. 42.

述のように、上部に左右2つの絵があり、下にテキストが続く。創世記的エピソードが続く冒頭部などをのぞき、多くの場合は左に新約聖書の出来事、右にそれと対応する旧約聖書の出来事が描かれている——旧約の場面が2つ並ぶことも少なからずある。わかりやすい事例でいえば、自ら十字架を背負って運ぶキリスト(『ヨハネによる福音書』19章17節)が父アブラハムに命じられてその身を焼くための薪を背負うイサク(『創世記』22章6節)と、マリアとヨセフの結婚(外典『ヤコブの福音書』9章3節)がサラとトビアスの結婚(外典『トビト記』7章13節)と対比されている。ちなみに、図2の左図は、十字架にかけられたイエス(『マタイによる福音書』27章35節)で、右図は金属と音楽を生み出すユバルとトバルカインの兄弟(『創世記』4章21節)となっている。鉄をたたき音からメロディーを紡ぎだすさまが、十字架にかけられたイエスの祈りの言葉を予兆すると理解されている¹⁶。

上記の例に示されているように、引用されているのは現在のカトリック教会が承認している新約聖書、旧約聖書のテキストにはかぎらない。外典はもちろんのこと、中世の神学者ペトルス・コムストル『スコラ神学の歴史』やヤコブス・デ・ウォラギネ『黄金伝説』なども取り込まれている。また、はっきりとは出典がわからないが、旧約聖書中の人物にかかわるエピソードについてはヘロドトス『歴史』などの古代の著作も用いられているようである。『人類救済の鏡』は、中世の人々による2つの聖書を結び付けて解釈するための努力や、それらが古代以来積み上げられた体系の中で受容されていたことなど、聖書の重層的な撰取の仕方を垣間見せてくれる。

さらに、どのような場面なのかビジュアル的に認識できる点も、当時のリテラシーの問題を理解するうえで重要となる。教会芸術は「観る聖書」とも称されるが、聖書は図像によって理解を補われていたのである。今回取り上げた『クルムロフ宗教論集』は大貴族の影響下で修道院が作成した可能性が高いが、『人類救済の鏡』がその後も木版本として流布し続けることを考えるならば、おそらく中世後期社会の広い階層が同じような仕方で聖書を「観て」いたものと想定できる。

¹⁶ A. Labriola, J. Smeltz (trans. & comm.), *The Mirror of Salvation*, p. 62.

以上のように、『クルムロフ宗教論集』所収の『人類救済の鏡』がもつ特性として、中世後期の宗教書の一類型を示していること、カラーで描かれた多様な挿絵を伴っていることを指摘できる。ここで強調しておきたいのは、このテキストがもつそうした特性は中世ヨーロッパを学ぶ／教える現代のわれわれにとっても同じ価値をもつということである。人間はイメージできないものには関心をもちづらい。そして関心をもてないものを学ぶ意欲はわからない。しかし、中世の服装、道具、行為などを明確に示すカラフルな挿絵は、初学者のハードルを下げしてくれる¹⁷。図像によって一定のイメージを与え、少しなりとも関心を喚起することは、彼らの理解にとって大きな助けとなるだろう。そしてここでは、その資料が宗教書であるために二重の有効性をもつ。信徒でないかぎり、一般の学生や院生は詳しい聖書の内容は知らないし、キリスト教の「聖書」が2種類あることも知らない¹⁸。歴史的事象を理解するうえで宗教の問題が大きな障害となることは、多くの方が実感されるところであろう。また、高校教員は新旧の聖書それぞれの成り立ちを理解しているとしても、性質の異なるそれら2つの聖典がどのように折り合っていたのかまで理解することは難しい。その点で『クルムロフ宗教論集』所収の『人類救済の鏡』は格好の教材を提供しているといえる。

現在、大学院における筆者の主な教育任務は、研究者の養成ではなく、高校地歴教員の専修免許状取得を目的とする進学者への教育にある。中世ヨーロッパ世界を理解するために役立つ図像資料やそのデジタル情報などを教えることが、彼らが高校でよい世界史教育（まもなく「歴史総合」および「世界史探究」に変更）をおこなうための土台になる。レベルの高い高校教師の養成は、高校における充実した世界史教育の実践につながり、さらにそれは世界史への関心をもつ受験生、一般市民の増加を意味する。彼らは大学で世界史を専攻し、専門書を購入し、研究の社会的価値を承認してくれる存在となるはずである。もはやこのサイクルへのコミットなしに大学における西洋史研究は成り立たない時代に入っている。高校生が中世ヨーロッパの生活をイメージするための資料として高校教員が活用するために、研究者としてさまざまな資料の基本情報を提供する作業を今後も続けていきたい¹⁹。

【付記】本稿は日本学術振興会の科学研究費（基盤C）「聖人崇敬の表象から読み解く中世君主の政治的課題と統治理念：カール4世の事例から」（課題番号19K01055）の成果の一部である。

（静岡大学教授）

¹⁷ ここまで確認してきたように、先行する写本を手本として描かれている挿絵が多いことから、描かれたモノが厳密な意味での制作年代当時のものとは言い切れない。しかし、広く中世ヨーロッパ社会のイメージをつかませるためには使用することは問題ないと考える。

¹⁸ これまで受講した大学院生はみな聖書を手取るのがはじめてだったが、図像に流血シーンの多いことに驚き、雅歌などの恋愛歌が宗教書として編まれていることにさらに驚いていた。

¹⁹ 注5に示した大学紀要での報告のほか、教員免許状更新講習や、勤務校で筆者が企画・運営している「地歴教員養成講座」（学生・院生、高校教員との勉強会）などの機会でも情報の提供を心掛けている。

中世後期の彩飾写本をめぐる研究と教育の可能性

| 制作年代 | 所蔵都市 | 所蔵施設 | 作者(制作地) | 備考 |
|------------|---------------|---|--------------------------------|---|
| 1320-1340 | Toledo | Archivo Capitular, MS 10 8 | | 破損 |
| c1325-1330 | Kremsmunster | Stiftsbibliothek, CC 243 | 南ドイツ、おそらくヴァイセナウ | 欠本 |
| 1326-1350 | Munich | Bayerische Staatsbibliothek, Clm 146 | ボローニャ | |
| 1326-1375 | London | British Library, Harley MS 4996 | 南ドイツないしアルザス地方 | 欠本 |
| c1330 | Munich | Bayerische Staatsbibliothek, Clm 23433 | 南ドイツないしスイス | 欠本 |
| c1330-1340 | London | British Library, Sloane MS 346 | イングランド | 欠本 |
| c1330-1340 | Munich | Art Markt (1967) | 上ライオン地方 | 断片、formerly Strassburg, former Collection |
| c1330-1340 | Vienna | Osterreichische Nationalbibliothek, ser. Nov. 2612 | シュヴァーベンないしオーストリア | 欠本 |
| 14世紀前半 | Rome | Biblioteca Corsiniana, MS 55, K. 2 | ヴェネチア | Rossi 17 |
| c1350 | Augsburg | Universitätsbibliothek, Dettingen-Wallersteinsche Bibliothek, Cod. I.2.2.23 | 南ドイツ | |
| 14世紀中葉 | Berlin | Staatsbibliothek zu Berlin-Preussischer Kulturbesitz, Ms. lat. fol. 329 | おそらくフランク地方 | 欠本 |
| 14世紀中葉 | Karlsruhe | Badische Landesbibliothek, Karlsruhe 3378 | 東ドイツ | |
| c1360 | Darmstadt | Universitäts- und Landesbibliothek, Hs 2505 | ケルンないしヴェストファーレン | |
| c1370-1380 | Paris | Bibliothèque Nationale, Latin 511 | アルザス地方 | |
| c1370-1390 | Paris | Bibliothèque Nationale, Latin 9504, and Cambridge, Fitzwilliam Museum, MS 43-1950 | トスカニー地方ないし北イタリア | |
| 1376-1400 | London | British Library, Harley MS 3240 | ドイツないしスイス | 欠本 |
| 1378 | London | British Library, Aco MS 16578 | トバイエルン | 欠本 |
| c1380 | Lilienfeld | Stiftsbibliothek, MS 114 | オーストリア | |
| 14世紀後半 | Cologne | Historisches Archiv, Best. 7020 (W*) 105 | おそらくケルン | |
| 14世紀後半 | London | British Library, Aco MS 38119 | ライオン地方 | 欠本 |
| 14世紀後半 | London | British Library, Aonoe MS 120 | ドイツ | 欠本 |
| 14世紀後半 | Munich | Bayerische Staatsbibliothek, Cgm 5249 (44a) | 東ドイツ | 断片 |
| 14世紀後半 | Munich | Bayerische Staatsbibliothek, Clm 3003 | バイエルン | |
| 14世紀後半 | Paris | Bibliothèque de l'Arsenal, Ms-593 | ボローニャ | |
| 14世紀後半 | Paris | Bibliothèque Nationale, Français 400 | イングランド | |
| 14世紀後半 | Prague | Knihovna pražské metropolitní kapituly, A13 | ボヘミア、おそらく部分的にイタリア | |
| c1390 | Brussels | Bibliothèque Royale, MS 201-203 (2140) | ライオン地方 | |
| 14世紀末 | Admont | Stiftsbibliothek, Cod. 101 | オーストリアないし南ドイツ | |
| 14世紀末 | Baltimore | Walters Art Museum, W. 149 | ドイツ | 断片 |
| 14世紀末 | Oxford | Booleian Library, Ms. Lyell 67 | ブラハ | 欠本 |
| 14世紀末 | Prague | Knihovna pražské metropolitní kapituly, A32 | ボヘミア | 欠本 |
| c1400 | Berlin | Staatsbibliothek zu Berlin-Preussischer Kulturbesitz, Ms. Germ. fol. 1343 | ライオン地方 | 欠本 |
| c1400 | London | British Library, Aco MS 32245 | ドイツ | 欠本 |
| c1400 | New York | H. P. Kraus, cat. 88 (1958), no. 15 | 南ドイツ | 欠本 |
| c1400-1410 | New Haven | Beinecke Rare Book and Manuscript Library, Yale University, MS 27 | イングランド | |
| 1400-1414 | Vatican | Biblioteca Apostolica Vaticana, Pal. Lat. 413 | Hermann Wyrnich von Wesel | |
| 1401-1425 | London | British Library, Aco MS 11575 | ブリュージュ | |
| 1401-1425 | London | British Library, Sloane MS 3451 | イングランド | 欠本 |
| 15世紀初頭 | Neustift | Stiftsbibliothek, Cod. 166 | 南ドイツ | |
| 15世紀初頭 | Nuremberg | Germanisches Nationalmuseum, Hs. 22401 | おそらくシュヴァーベン | 一部彩色 |
| 15世紀初頭 | Paris | Bibliothèque Nationale, Latin 512 | バーゼル | |
| c1410-1420 | Prague | Národní Muzeum, I. A. c. 75, 6 | ボヘミア | 断片 |
| c1415-1425 | Nova Rise | Kanonie sv. Petra a Pavla, Ms 80 | Master of the Brno Speculum | |
| c1415-1440 | Amberg | Provinzialbibliothek, 2 Ms. 46 | シュヴァーベン | |
| c1420 | New York | Public Library, Spencer 15 | ライオン地方中部 | |
| c1420 | Prague | Národní Muzeum, III. B. 10 | ボヘミア | |
| c1420-1430 | Heidelberg | Universitätsbibliothek, Cod. Pal. Germ. 432 | ライオン地方中部 | |
| c1420-1430 | Prague | Národní Muzeum, I. A. c. 75, 1-5 | ボヘミア | 断片 |
| 1426-1450 | Paris | Bibliothèque Nationale, Latin 9586 | フランスないしドイツ | |
| 1426-1450 | Turin | Biblioteca Nazionale Universitaria, MS I. II. 11 | おそらくカタルニア | |
| 1427 | Sarnen | Benediktinerkollegium, Cod. Memb. 8 | スイス | |
| 1428-1429 | Vatican | Biblioteca Apostolica Vaticana, Reg. lat. 99 | ハンガリー | |
| c1430-1450 | Oxford | Booleian Library, Ms. Douce 204 | カタロニアないしルシヨン | |
| 1432 | Madrid | Biblioteca Nacional de Espana, Vlt. 25-7 | インズブルック | olim B. 19 |
| 1436 | Freiburg | Universitätsbibliothek, Hs. 179 | アルザス地方 | |
| 1436 | Leipzig | Universitätsbibliothek, Cod. Haen. 3506 | フランスないしフランドル | 製作途中 |
| 1436-1438 | London | British Library, Egerton MS 878 | ラーヴェンスブルック | 欠本 |
| 15世紀前半 | Munich | Bayerische Staatsbibliothek, Cgm 5249 (44b) | 東シュヴァーベン | 断片 |
| 15世紀前半 | Nuremberg | Germanisches Nationalmuseum, Hs. 42541 | 東ドイツ | 断片 |
| 15世紀前半 | Paris | Bibliothèque Nationale, Latin 9585 | ライオン地方 | |
| 15世紀前半 | Vatican | Biblioteca Apostolica Vaticana, Pal. Lat. 1806 | アウクスブルック | |
| 15世紀前半 | Wrocław | Biblioteka Uniwersytecka, I F 108a | | |
| c1440 | Copenhagen | Royal Danish Library, GKS 78 folio | ブリュージュ | |
| c1440 | St. Gall | Kantonsbibliothek, VadSlg Ms. 352, 1-2 | シュヴァーベンないしスイス | |
| c1440-1450 | Berlin | Staatsbibliothek zu Berlin-Preussischer Kulturbesitz, Ms. Germ. fol. 245 | ライオン地方中部 | |
| c1440-1460 | Munich | Bayerische Staatsbibliothek, Cgm 3974 | バイエルンないしオーストリア | |
| 1441 | Vatican | Biblioteca Apostolica Vaticana, Pal. Lat. 385 | ドイツ | ch. 3 onward Antitypesのみ彩色 |
| 1447 | Berlin | Staatsbibliothek zu Berlin-Preussischer Kulturbesitz, Ms. lat. fol. 937 | アウクスブルック | 欠本 |
| c1450 | Berlin | Staatsbibliothek zu Berlin-Preussischer Kulturbesitz, Ms. lat. fol. 937b | 南ドイツ | 欠本 |
| 15世紀中葉 | Mainz | Wissenschaftliche Stadtbibliothek, Hs II 10 | ドイツ | 一部彩色 |
| 15世紀中葉 | Paris | Bibliothèque Nationale, Français 188 | フランス | |
| 15世紀中葉 | Rothenburg | Konstorsbibliothek, WD 107 | 南ドイツ | |
| c1450 | Saint-Omer | Bibliothèque municipale, MS 183 | Circle of Master of the Mansel | |
| c1450-1460 | Einsiedeln | Stiftsbibliothek, Cod. 206 (49) | パリ | |
| c1450-1460 | Berlin | Kunstsbibliothek, CD 1 R | | formerly Lipp. 403, Master of Amiens 200 |
| 1451-1475 | Frankfurt | Universitätsbibliothek, Ms. Germ. Qu. 100 | バイエルン | |
| 1454-1455 | Glasgow | University Library, Hunter 60 | ブリュージュ | |
| 1456 | Augsburg | Universitätsbibliothek, Dettingen-Wallersteinsche Bibliothek, Cod. I.2.2.24 | ニュルンベルク | |
| 1456 | Wolffenbuttel | Herzog August Bibliothek, Cod. Guel. 81.15 Aug. fol. | 東ドイツ | |
| 1459 | Stuttgart | Württembergische Landesbibliothek, Cod. Theol.et.phil. Fol.122, part 2 | エルヒンゲン、シュヴァーベン | |
| c1460 | Chicago | Newberry Library, MS 40 | ブリュージュ | |
| c1460 | Berlin | Staatsbibliothek zu Berlin-Preussischer Kulturbesitz, Ms. Germ. fol. 945 | 南ドイツ | 欠本 |
| c1460-1470 | Oxford | Booleian Library, Ms. Douce 14 | おそらくフランドル | 断片 |
| 1462 | Lyon | Bibliothèque municipale, MS 245 | モンズ | |
| 1463 | Munich | Bayerische Staatsbibliothek, Cgm 1126 | バイエルン | 彩色未駆りマニユスクリプト |
| c1470-1480 | Marseille | Bibliothèque municipale, MS 89 | フランス | |
| c1475 | Baltimore | Walters Art Museum, W. 731 | 南ドイツ | 断片 |
| c1480 | Saint-Omer | Bibliothèque municipale, MS 184 | Saint-Omer | |
| 1485-1509 | London | British Library, Harley MS 2838 | Master of the Dark Eyes | 欠本 |
| 1485 | Paris | Bibliothèque Nationale, Français 6275 | Master of Edward IV | |
| c1493-1494 | Paris | Bibliothèque Nationale, Velins-906 | パリ、ヴェールもの | 通称により誤りした本 |
| 15世紀 | Cambridge | Magdalene College, Pepsys Library, MS 2359 | イングランド | |
| 15世紀 | London | British Library, Sloane MS 361 | ドイツ | |
| 15世紀 | Madrid | Biblioteca Nacional de Espana, MS 0562 | ドイツ | |
| 15世紀 | Munich | Bayerische Staatsbibliothek, Clm 9716 | バイエルン | |
| 15世紀末 | Saint-Omer | Bibliothèque municipale, MS 236 | Saint-Omer | |
| c1500 | Chantilly | Musee Condé, MS 139 | Circle of Master of James IV | |
| 1500 | Cambridge | Fitzwilliam Museum, MS 43-1950 | | |
| 1500 | Chekovskoy | Collection Natalya Ugolina | | 断片 |
| 1600 | Königsberg | Stadtbibliothek, Cod. S. 18.2 | | 断片 |
| 1601 | Moscow | diverse collections | | 断片 |
| 1602 | Nuremberg | Germanisches Nationalmuseum, Hs 5970 | | Breit 78, Kapsel 1595, 断片の損失、欠本 |

表1: ウォーバーク研究所が所蔵する資料データの『人類救済の鏡』手稿本リスト